

教 育 長 様

代表者 校 園 名:大阪市立本田小学校
校 園 長 名:銭本 三千宏 公印
電 話: 06-6581-1531 FAX: 06-6581-3194
申請者 校 園 名:大阪市立本田小学校
職 名・名 前 首席:流田 賢一
電 話:06-6581-1531 FAX:06-6581-3194
代表者校 園 事務職員名:原田 陽子

平成27年度「がんばる先生支援」個人・グループ研究 報告書

◇ 平成27年度 「がんばる先生支援」個人・グループ研究について、次のとおり報告します。

1. 研究コース:() 内は、いずれかを○で囲んでください。	
(個人・グループ) 研究 (基礎・今日的課題): 研究コース	
継続研究: いずれかを○で囲んでください。	継続研究2年目 ・ 継続研究3年目
2. 研究テーマ	
「世界トップレベルの学力・人間力強化」をめざして	
3. 研究目的: 箇条書きで端的に書いてください。	
<ul style="list-style-type: none">○ 新しい能力観に対応できる児童の育成○ 21世紀型学力を身につけるための学習内容・方法を探る。○ 自ら学ぶ意欲や学ぶ手法を獲得する児童の育成○ 今までの授業方法を転換し、学力の捉え方を問い直す指導者へと成長○ ICTの活用による授業での知識活用場面の充実○ 先進研究校の公開授業・講演会を企画・運営し、大阪市全体に広げる	
4. 取り組み内容: 取り組んだ研究内容を具体的に記載してください。	
<p>昨年度から支援事業により、研究を引き続き進めている。本研究テーマを『世界トップレベルの学力・人間力強化』をめざして」としている。「学力・人間力」を高める方策の一つとして示されている「プレゼンテーション」「対話・討論」「観察・実験」を重視した授業を実施してきた。</p> <p>◇理論研修 本研究では、「21世紀型スキル」を理論研修し10のスキルについて研鑽した。その中でも、本年度の研究では焦点化し、「コミュニケーション」「コラボレーション」「ICTリテラシー」の3スキルを研究の中心とした。「コミュニケーション」とは、児童相互が自分の意見を持ち、素直に話し合う姿を仮定した。「コラボレーション」とは、複数で考えを洗練させていく過程と仮定した。「ICTリテラシー」とは、タブレットを活用することで、自分の考えを整理・表現する姿を仮定した。これからの社会では、解がない問いに立ち向かう力が必要になる。そのため、教師が授業で意識的に場を作り、一人で考え、複数で練り上げる学習を作ることを実施した。</p> <p>◇実践研究 先進校から学び、教員の専門を伸ばすために多くの研究会に参加した。研究のパラダイムを作るために、研究テーマに関わる児童の育成をしている筑波大学附属小学校に複数の教員を派遣した。学んだことを伝達研修や研究授業を通して伝える場を作り、共通理解を得られるようにした。この2年間でほとんどの教員が先進校へ視察に行くことができた。そのため、授業方法について話す共通土台ができている。研修会では、授業方法にとどまらず、授業づくりの根幹で重要な考え方の話ができるようになってきた。また、教科を限定せずに研究を進めているため、他教科の実践を自分の研究教科にも生かすことができる。互いに影響し合い研究ができている。</p> <p>◇講師招聘 今年度は、大学教員2名、小学校教員2名を招聘し研究を進めてきた。4回の公開研究授業、1回の教材研究会を実施した。公開研究授業の日には、講師の先生に一日来校いただき午前は校内研究会、午後は全市公開研究会とした。これは、研究のパラダイムを作るために同じ授業を見て、本校職員と講師の先生が話し合うことができた。支援事業を活用し、本校だけでなく大阪市の教員のために広く公開しともに学ぶことができた。このことにより、教育のネットワークを広げることができた。</p>	
◆ 研究内容のキーワード	
新しい能力観 21世紀型学力 ICTを活用 学習意欲向上	

5. 検証方法と成果・課題について具体的に記載してください(分析内容の記載)

研究のトライアンギュレーションにより、「教員」「児童」「授業を通した研究」の側面から整理する。

○ 教員について

教員の意識改革のために昨年度に引き続き、先進校へ視察に行けたことは、有効だった。のべ25人が研究会に参加した。二度目からは、自費で参加する教員も多く見られ、学びへの意欲が高まったと言える。授業づくりの話をするときにも、共通認識を持った教員が多いため、イメージを共有化しやすく話し合いが深まった。理論研修だけでなく、実践研修を多く持てたことは、教員の授業づくりに役立った。日常から授業づくりについて話し合う場面が増え、専門性を持った教員に学び合う関係性が作られるようになった。また、教員の中には自分の専門性を見つけたいと研修に参加するものもいた。今までの授業づくりから変化させ、児童が問いを持ち考える授業イメージを研修の中で確認できた。考えを持ち、集団の中で練り上げ洗練させていくという授業は、個人の力を土台としているが、他者が存在しなくては成立しえない学びである。

今年度、21世紀型スキルの中から3スキルに重点を置いたが、方向性は同じであったが細かな部分が違ったため、本田流の21世紀型スキルを作成できるようにすれば、もっと共通理解をはかれたのではないかと考える。スキルの示す意味が広いため、具体的な姿にしてもっと焦点化すればよかった。

○ 児童について

児童は、今まで教員が学習を与えてくれる授業を多く受けてきているため、新しい授業像を受け入れられるようになってきた。今までは、一人でも学習できた習得の学びはあるが、他者の影響を受ける面白さを少しずつ感じられるようになってきた。児童アンケートでは、話し合うことによる学習の中で進んで意見を言っていますかという問いに、年度当初は6割程度であったが、年度末には8割以上の児童が肯定的意見を述べている。これは、「一人じゃわからないことも、話すことで多くの意見が出てくる」「自分の考えと似ているところを探すのが楽しい」という意見があり、相互に関係し合う中で学びを深めている姿がわかる。また、表現の面でもプレゼンテーションすることは大切だと思うというアンケートに、9割を超える児童が肯定的な考えを示している。これは、本年度自分の考えを表現する場を多く設定したからだろう。

○ 授業を通した研究

本年度、本校の教員だけでなく市内の教員や講師を招聘した研究会など、本校の研究を客観的に評価していただく場を多く持った。その中で、授業の土台となる「児童同士の認め合いがある」という人間関係、「自分の考えを持ち、表現する場を設定している」という授業づくり、「教材分析が根本にあり、授業づくりしている」という教科の本質に迫る教材分析の面などの評価をしていただいた。これは、2年間にわたり支援事業をいただいたおかげである。

タブレットを活用した教育について、本田小学校が実践している「考えを整理するツール」「考えを伝えるツール」「表現するツール」の方法が効果的であると評価していただいた。

○ 家庭での効果

児童の学びは、授業だけで完結せず、家庭学習にも広がりを見せるようになった。反転学習を取り入れることにより、ノートを見るだけでは伝わらなかった学校での学びが感じ取られ、一緒に学習をしている方が半数を超えている。児童の学びに関心を持っていただけるという副次的効果があった。また、学習内容にとどまらず「社会で起きていることの話」を家族でする」というアンケート結果が、年度始めから年度末にかけて半数から8割を超えるまでに増加した。

○ 以上のことにより、3側面から今年度研究している内容について整理した。本校の教員の授業づくりの考え方が、理論研修や実践研究により、新たな視点を与えられ変化してきている。研究のパラダイムを作るために、全職員が授業公開をし、お互いに学んだことを実践の場で表現してきた。教員が主体的に学び成長しようとする姿がある。このことは、児童の学びや成長に大きく影響を与えている。今年度、自分の考えを表現することに焦点をあて、研究を進めてきたそのためには、自分の考えを持ち、他者と協働した学びが不可欠であった。これは、まさしく新しい学力観として言われている考え方と同じである。

6. 研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。

日程	平成27年	6月	26日(金)	場所：本田小学校	公開授業	参加者：120名
	平成27年	7月	23日(木)	場所：本田小学校	教材研究・講演会	参加者：210名
	平成27年10月		1日(木)	場所：明治小学校	公開授業・講演会	参加者：180名
	平成27年10月		15日(木)	場所：本田小学校	公開授業・講演会	参加者：120名
	平成28年	2月	5日(金)	場所：本田小学校	公開授業・講演会	参加者：150名

上記の内容を原則としてA4版2ページで作成し、平成28年2月26日までに大阪市教育センター「がんばる先生支援」担当まで提出してください。(研究資料等を添付)